

第3号様式

令和7年度第1回船橋市生涯学習基本構想・推進計画検討委員会 会議録

(令和7年10月22日作成)

1 開催日時

令和7年9月2日（火曜日）午後3時15分から午後4時50分まで

2 開催場所

市役所本庁舎 9階 第一会議室

3 出席者

(1) 委員 明石 要一、竹迫 和代、辻 大士、五藤 美枝子、奥住 恵子、
草野 滋之、沼波 規子、栗山 裕真、水野 恭成

(2) 事務局 社会教育課長、社会教育課長補佐、その他社会教育課職員

4 欠席者

長尾 常史

5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開の場合にあっては、その理由

(1) 委員長・副委員長の選出について（公開）

(2) 第三次船橋市生涯学習基本構想・推進計画策定の概要について（公開）

(3) 生涯学習に関するアンケート調査について（公開）

6 傍聴者数（全部を非公開で行う会議の場合を除く。）

0人

7 決定事項

(1) 委員長に明石委員、副委員長に竹迫委員を選出した。

(2) 議題(2)及び(3)について、質疑応答及び意見聴取を行った。

8 問い合わせ先

船橋市生涯学習推進本部事務局（教育委員会生涯学習部社会教育課）

電話：047-436-2895

午後 3 時 25 分開会

○社会教育課長補佐

それでは、ただいまより、令和 7 年度第 1 回船橋市生涯学習基本構想・推進計画検討委員会を開会いたします。

○社会教育課長補佐

なお、委員長選任までの進行は事務局で行わせていただきます。

ここで会議の公開及び傍聴について説明させていただきます。

本会議につきましては、不開示情報が含まれておりませんので、船橋市情報公開条例第 26 条に基づき公開となります。また、会議後は会議録を作成し公開しますが、その際には委員の皆様のお名前も公開となりますので、ご了承ください。

なお、会議の開催については、市のホームページにて開催日程等を事前に周知していることをご報告いたします。

続いて、傍聴についてです。本日の会議について傍聴者の受付をしましたところ、傍聴人の希望はなかったことをご報告いたします。

それでは、本日の議事に入ります。

次第の 1、「委員長・副委員長の選出について」でございます。船橋市生涯学習基本構想・推進計画検討委員会設置要綱第 5 条第 2 項に基づきまして、委員長、副委員長をそれぞれ 1 人、選出をお願いいたします。

それでは、まず、委員長についてどなたか推薦いただけませんかでしょうか。

○草野委員

では、前回も委員長を務めていただいておりますし、明石委員が適任かと思えますけれども、いかがでしょうか。

○社会教育課長補佐

ありがとうございます。ただいま委員長として明石委員を推薦したいとの意見がありましたが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。皆様、異議なしということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○社会教育課長補佐

明石委員はいかがでしょう。お引き受けいただけますでしょうか。

○明石委員

はい。了解いたしました。

○社会教育課長補佐

ありがとうございます。では、明石委員に委員長をお願いすることに決定いたします。

それでは、明石委員は委員長席にご移動をお願いいたします。

(明石委員、委員長席に移動)

○社会教育課長補佐

それでは、委員長に一言ご挨拶をお願いしたいと思います。明石委員長、よろしくお願いいたします。

○明石委員長

委員長を仰せつかった明石でございます。

一つの狙いは、生涯といひましようか、1回ではなく継続できる学びをどうやって保障していくかというのが一つの目標だと思います。もう一つは、この65万人という多様な市民がいる中で、学んだことを自分以外のことで社会に貢献していきたい、そういう成果を期待したい。

というのは、65年前、兵庫県の田舎の小学校の教師たちが非常にいい本を書いています。『村を育てる学力』です。ちょうど65年前は高校進学が増えるんです。高校に行きますと、村を捨てて都会に行ってしまうのだ、そういう教育でいいのだろうか。東井義雄さんという方が書いています。それは学校教育に対する痛烈な批判です。学校教育は世の中に出ていくためのワンステップだと考えて、村を捨てたのだ、それでいいのだろうか。そうすると、生涯学習というのは、やっぱり地域を育てる学びというふうに考えていきたい。そういう施策が船橋でできればなと思っております。

この2年間、よろしくお願いいたします。(拍手)

○社会教育課長補佐

ありがとうございます。それでは、この先の進行につきましては委員長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○明石委員長

それでは、私が進行させていただきたいと思います。

続きまして、副委員長の選出であります。前回も副委員長をお願いいたしました竹迫委員にお願いできればと思っておりますが、皆様、いかがでしょうか。よろしゅうございますよね。

(「異議なし」の声あり)

○明石委員長

では、竹迫委員、いかがでしょうか。

○竹迫委員

微力ではございますが、お引き受けいたします。

○明石委員長

ありがとうございます。では、竹迫委員に副委員長をお願いすることに決定いたしました。こちらにどうぞ。

(竹迫委員、副委員長席に移動)

○明石委員長

それでは、竹迫副委員長から就任のご挨拶を一言でお願いいたします。

○竹迫副委員長

竹迫でございます。本当に微力ですので、明石委員長の足を引っ張らないように、皆様のご意見で私も学びたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

○明石委員長

それでは、議事を進めさせていただきます。

次第の2、「第三次船橋市生涯学習基本構想・推進計画（ふなばし一番星プラン）策定の概要について」でございます。事務方からご説明をお願いいたします。では、藤井課長、お願いします。

○社会教育課長

それでは、改めまして、社会教育課の藤井と申します。よろしくお願いいたします。

資料1の「（ふなばし一番星プラン）について」に沿ってご説明をいたします。A4横サイズの資料でございます。

まず、資料の2ページをご覧ください。資料2ページからは、計画の概要について説明をいたします。

続いて、3ページをご覧ください。

ふなばし一番星プランは、「生涯学習社会」の実現を目指し、生涯学習推進体制の整備・充実を図ることを目的として策定しています。ふなばし一番星プランは、10年間の「基本構想」と5年間の「推進計画」で構成されており、右下の点線の矢印部分の令和9年度からの後期推進計画については、今年度から策定に着手しているところです。

4ページをご覧ください。

ふなばし一番星プランは、総合計画の生涯学習に関する個別計画として位置づけられており、船橋市教育大綱、船橋の教育2020との整合を図った上で策定されています。

5ページをご覧ください。

一般的に、生涯学習とは、学校教育、家庭教育などの様々な場や機会において行う学習の意味で用いられており、非常に広義のため、この計画上は、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、青少年・成人に対して行われる組織的な教育活動を生涯学習としています。

次の6ページをご覧ください。

ふなばし一番星プランの基本構想については、令和13年度まで改定予定がないため、ここに記載の「基本理念」、「スローガン」、「目標ⅠとⅡ」、「基本姿勢」に基づき、後期推進計画の策定を行ってまいります。

7ページをご覧ください。

ふなばし一番星プランの推進計画では、基本構想で定めた目標ⅠとⅡを達成するための基本施策、施策、取組を整理しています。

目標Ⅰ「継続して何かを学んだり、活動したりしている人の割合の向上」の達成に向けて、推進計画では「多様な学習ニーズへの対応と、充実した学習機会の提供」を基本施策Ⅰとし、充実した学習、活動を継続して行うことができるよう、様々なニーズに対応しながら学習機会の提供と環境整備を行います。

また、目標Ⅱ「学びの成果を自分以外のために活かす人の割合の向上」に対する基本施策Ⅱ『学習と活動の循環』の促進では、学びを一過性のものに終わらせず、その成果を活動につなげ、活動を踏まえてさらなる学びにつなげる「学習と活動の循環」を目指し、「ひとつづくり」、「つながりづくり」に加え、学びの成果を活かして活躍できる環境整備を行います。

この基本施策ⅠとⅡのそれぞれに毎年測定が可能な指標を設定しており、実績値を点検しています。

8ページをご覧ください。

ここでは、推進計画の体系をまとめています。基本施策ⅠとⅡのそれぞれで施策を定めており、基本施策Ⅰでは合計で14個の施策、基本施策Ⅱでは合計で7個の施策を定めています。市民の皆さんに知る機会、学ぶ機会を提供し、学ぶだけで終わることなく、生活に生かしたり活動につなげていただくところまでを含めて取り組んでいこうというのがこの計画となります。

詳細な取組内容については、後ほどいくつかご紹介させていただきます。

9ページをご覧ください。

ふなばし一番星プランでは、先導的に取り組む必要があると考える内容を明確化した「リーディングプロジェクト」というものを設けており、「人生100年時代への対応」、「デジタル化社会への対応」、「『共生社会』実現のための取組の充実」、「学びを広げる情報の充実」、「地域の拠点『公民館』の充実」の5つをリーディングプロジェクトとしています。

10ページをご覧ください。ここからは計画の進捗管理について説明します。

11ページをご覧ください。

先ほど説明した毎年測定指標については、下にある表のように目標ⅠとⅡのそれぞれで毎年測定が可能な指標を設定しており、例えば、左の表ではリカレント教育の充実に関して、市が主催する事業の参加者数の実績がどうだったか、右の表では社会教育関係団体の会員数の実績がどうだったかといったことを点検しています。

次の12ページをご覧ください。

ふなばし一番星プランについては、ちょうど策定していた令和元年度から3年度にかけて新型コロナウイルス感染症の感染が拡大していたということもあり、不測の事態が発生した場合には取り組むべき事業の追加や優先順位の変更等が生じることが考えられたため、推進計画内には各施策に対応する事業の位置づけは行っておらず、各施策対応事業管理表を作成して管理しています。

この各施策対応事業管理表については、左から、①のふなばし一番星プランの施策・取

組ごとに、②で事業を整理し、③で実績を把握した上で評価を行っております。

13 ページをご覧ください。

基本施策の目標ⅠとⅡのそれぞれで目標値を設けていますが、目標Ⅰの令和13年度の目標値が60%のところ、令和6年度の現状値が51.9%となっています。また、目標Ⅱの令和13年度の目標値が23.0%のところ、令和6年度の現状値が18.9%となっています。この達成状況も踏まえて、後期推進計画の内容を検討していく予定です。

14 ページをご覧ください。これまで少し抽象的な話をしてきましたので、いくつかの具体的な事例を紹介させていただきます。

15 ページをご覧ください。

「人生100年時代への対応」として、ふなばし市民大学校で「リカレント教育に関する特別講座」を実施しました。左の「パラレルキャリアコース」では、今後のキャリアの選択肢を広げる方法を学ぶ機会を提供し、右の「コミュニティビジネスコース」では、地域の課題や強みを整理してビジネスにつなげるためのきっかけを提供しました。

16 ページをご覧ください。

「デジタル化社会への対応」として、全ての公民館に「公民館スマホコンシェルジュ」を配置しました。スマホのちょっとしたお悩みに対して公民館職員が相談に応じています。

17 ページをご覧ください。

このほかに「デジタル化社会への対応」として、デジタルデバイドを解消する人材を育成するため、市民を対象に「市民スマホコンシェルジュ」を養成し、老人福祉センターなどで行われるスマホ相談会などに派遣し、スマホのちょっとした相談に応じたりしています。

18 ページをご覧ください。

『共生社会』実現のための取組の充実」として、西部公民館において多文化共生事業を実施しました。地域のベトナム人を対象に、ボランティアガイドと通訳が一緒に中山のまちを案内し、午後には公民館に戻ってベトナムのスポーツを体験しました。このほかにも、多くの公民館で、リーディングプロジェクトとして、パラスポーツ選手の講演会、国際交流課の国際交流員による食文化の講座など、共生社会や多文化共生に関する様々な事業を実施しています。

19 ページをご覧ください。

「学びを広げる情報の充実」として、学びの成果を可視化する仕組みを設け、市民の生涯学習活動の実績に応じて称号を授与する「学びポイント事業」を実施しました。学びポイントをためた方には、右下にあるバッジを差し上げています。

20 ページをご覧ください。

「地域の拠点『公民館』の充実」として、これまで2名以上の団体の利用しか認めていなかったところ、令和6年5月1日から個人でも利用できるようになりました。また、公民館を身近に感じてもらうために、多言語対応のご利用ガイドを配布しています。

21 ページをご覧ください。

「多様な主体との連携・協働」として、船橋には理系の大学が複数ある強みを生かし、日本大学理工学部、東邦大学理学部と連携し、小学生向けの理系講座を企画し、「ふなっこ未来大学」を開校しました。

次の 22 ページをご覧ください。現在の前期計画が策定された後の主な動向についても触れたいと思います。

23 ページをご覧ください。

令和 7 年 4 月 9 日に常住人口が 65 万 23 人となり、市の人口が 65 万人を突破しております。

次の 24 ページをご覧ください。

公民館、図書館、青少年施設の利用者数ですが、令和 2 年度に新型コロナウイルスの緊急事態宣言があったため、利用者数が落ち込んでいますが、その後は徐々に右肩上がり、利用者数がコロナ禍以前の水準に戻りつつあります。

25 ページをご覧ください。

公民館などで活動を行う社会教育関係団体の団体数や会員数については減少傾向にあり、地域で活動を行う人材が減っている状況にあります。

26 ページをご覧ください。その他、現状認識している課題を提示させていただきます。

まず、デジタルデバйд対策として、生涯学習施設でスマホ講座等を行っていますが、事業開始当初よりも参加者が集まりづらい傾向にあります。

また、人生 100 年時代への対応として、スキル獲得等につながるリカレント教育に関する講座を実施していますが、少し難しい内容だったりするために、実施する地域や公民館によっては参加者がなかなか集まらず、ニーズの把握やテーマ設定などに課題が感じられています。

27 ページをご覧ください。最後に今後のスケジュールをお示しさせていただきます。

28 ページをご覧ください。

本日、1 回目の検討委員会を開催させていただいています。その後、9 月から 10 月にかけて市民向けのアンケート調査を実施し、12 月には 2 回目の検討委員会で課題の整理や検討の方向性の整理を行い、1 月にはアンケート調査の報告書をまとめる予定です。その後、2 月に 3 回目の検討委員会で計画の構成案をお示しし、令和 8 年度に入りましたら 8 月頃から検討委員会を開催し、骨子案、素案などを提示し、広く市民の方からの意見を聞くパブリックコメントを実施した後に、2 月には最終案を作成し、3 月に後期推進計画の策定を完了する予定です。

以上でございます。

○明石委員長

藤井課長、ありがとうございました。非常に分かりやすい説明だったと思います。

それでは、各委員の皆さん、今のご説明について、ご質問、ご意見がありましたらお願い

いします。

最初でなかなか難しいと思いますので、私のほうから。あまり委員長はしゃべらないほうがよいのですが、一言、まず口火を切りたいと思います。

25 ページをお願いします。公民館などで活動を行う社会教育関係団体の数は、減少傾向にある。これは非常に悩ましい問題ですよ。例えば、沼波さんも知っているように、千葉県内の子ども会の数も減ってきている。ボーイスカウト、ガールスカウトの加入者も減ってきている。なぜそうなっているかというのを事務方とともに考えていきたい。要するに、組織がマンネリ化して魅力がないのか、もう一つは、関係団体のリーダーたちが高齢化して参加者のニーズとマッチしていないのか、それとも、今は非常に多様化して、様々なニーズが広がって、そのニーズを捉え切れていないのか、この辺は、今後この委員会で検討していきたいのですけれども、奥住さんは、青少年相談員連絡協議会にどういう形で参加したのでしょうか。若い方なのでびっくりしています。

○奥住委員

私がこの会議に参加したのは、父が青少年相談員連絡協議会の会長をやってまして、そこで父からやってみたらどうと言われて参加してみました。青少年相談員連絡協議会に入ったのは、青少年相談員は二十歳になってから参加できるのですけれども、大学のほうでもボランティア活動で単位がもらえるということで、去年から参加させていただいています。

父がこの青少年相談員連絡協議会に入ったきっかけが私でございまして、私が小学生の頃に青少年相談員のウインタースポーツでスキー合宿に行くという回がありまして、それに私が参加したことで父が青少年相談員というものに興味を持ち、参加して、私もそれに続いて青少年相談員に入ることにしたのがきっかけです。

○明石委員長

相談員になって、今、何年目ぐらいですか。それとも何か月ぐらいなのですか。

○奥住委員

去年の7月から始めましたので、1年ちょっとくらいになります。

○明石委員長

その1年間の経験でどうですか。組織というのは、年配者が結構多いと思いますけれども。

○奥住委員

そうですね。私が小学生の頃に参加させていただいたときにいた相談員の方々がまだいらっしゃる。まだという言い方はちょっと悪いのですけれども。

最近は青少年相談員のほうも人が減ってきているようでして、やっぱり私みたいに親が青少年相談員をやっていて、そのまま子供が入るのが最近が多いみたいですね。でも、学校のPTAの方々が周りのPTAの人を巻き込んで、ちょっとずつ、小さくならないように頑張って活動しております。

○明石委員長

ありがとうございました。

草野先生、船橋市の社会教育委員会では、そういう関係団体の数の減少は課題になっていないのでしょうか。どういう議論をされているのでしょうか。

○草野委員

確かに、社会教育関係団体の数、あるいは会員数が減少しているという現状報告は会議の中で出されまして、それについての議論というほどでもないですけども、その原因は何かとか、それから、それを克服するためにどういう手だてが考えられるとか、そんなに長時間の議論ではありませんけれども、そういった話は出ております。

やはりコロナの影響がありましたので、コロナ禍の中で、それまで築き上げてきたいろんな人間関係、あるいは社会教育のまさに醍醐味みたいなものが、コロナ禍によってかなりダメージを受けたということがあって、そういうことが一つの大きな背景にあるのではないかとということと、一方で、コロナ禍が一応収まって、少しずつ関係団体あるいは会員数の減少も若干回復してきているところがあります。

ですから、やはりコロナ禍の問題、あるいは高齢化の問題、それから、やっぱり世代的にそういうことに参加する、特に若い世代の新しい要求だとか、あるいは若い世代の人間関係に対する考え方、感覚みたいなものに対して、十分に対応し切れていないのではないかとという世代間的な差の問題とか、文化の違いの問題とか、そういったこともある程度影響はあるのではないかと思います。

○明石委員長

ありがとうございました。

事務方をお願いしたいのですが、社会教育関係団体の数は減りつつあるのでしょうかけれども、民間のNPOが増えています。大体、福祉関係のNPOが一番多いのでしょうかけれども、次に地域とか教育関係も出てきているので、その数はこのカウントに入っているのか入っていないのか。多分、入っていないと思うのですが、そういう意味で、市民活動全体が多様化している中で、従来の社会教育関係団体はどうなっているかということも位置づけてくれると助かります。そういうことも頭に入れておいていただくといいかと思います。

こういう形で各委員から、特に市民委員のお二人はがんがんしゃべっていただくといいかと思います。

○沼波委員

よろしいですか。

○明石委員長

はい。

○沼波委員

今、社会教育関係団体の数が減っているということで、多分、公民館の運営審議会のほ

うが一番身近にこれを感じていると思うんですよ。減少で一番言えるのは高齢化です。この社会教育関係団体に登録しているのは、変な言い方をすると、仲よしが集まって1つの団体をつくって、その中で楽しむという傾向がやっぱり大きいわけですね。そうすると、その指導者が高齢化すると次を引き継ぎましょうという人が多分途切れて、やむなく。ここ1～2年の減った原因を見ると、私たちが感じるのは高齢化です。

あとは、育てるということが一番大切なのでしょうが、活動しているときはそれが横に置かれてしまうのでしょうか。やっぱり楽しむことのほうに優先順位が置かれ、気がついてみたら育てていなかった。これは、子ども会にも言えますし、今、あらゆる団体で一番問題になっているところかなと思います。次世代を育てていなかった。それを私も子ども会を長年やって痛感しています。今、そういう現状を目にしているのでお話ししました。

○明石委員長

貴重な意見をありがとうございました。

では、水野さん。いろんな説明を受けた感想でもよろしいですから。

○水野委員

今、減少化というところに話題が行っていて、これには高齢化というものが大きいのかかっているということなのですから、このグラフを見れば分かるように、2020年、コロナが出たときから減っているの、その影響かなとも思うのですけれども、もう一つには、コロナ禍が進んだときに人との付き合い方が、地域ではなくて、外出もなかなかままならない時代に、SNS等を利用した行政をくくりとしない横断的な集まりが増えたのではないかなというところも根っこにあると思います。

私も地元の仲間と青年会議所やライオンズクラブで活動していますが、そこでの付き合いよりも、やはり地方の友達とのSNSを通じた付き合いというのが非常にこのコロナ禍を経てから多くなったような気がしています。これは私に限っていることなのですから、目を向けてみればどこかに増えている活動団体もあるのではないかなと。逆にそこを今度は発掘することによって、船橋市にそれを取り入れたり、そういったことで復活というところの糸口が少し見えてくるのかなと思いました。

すみません。拙い意見ですが。

○明石委員長

ありがとうございました。

では、栗山さん、何かございましたら。

○栗山委員

自分としては、やはり公民館であったりそういうところは、自分のような若い人間からすると、活動にそもそも必要なものとして、横の関係ではないのですけれども、やっぱりどうしても同年代の仲間と活動するというのが一番やりやすい中で、公民館は、とても失礼というか、語弊のない言い方をしますと、自分より大分上の世代の方々、それこそ自分の

祖母の世代の方々が集まって、グラウンドゴルフであったり、そういうことを楽しんでいらっしゃるイメージがとても強くて、そこに飛び込む勇気というのですかね、そこが自分としてはちょっとやりづらい状況でございまして、やっぱり自分のような若い人間からすると、どうしても少子化というところもあって難しいのでしょうけれども、地域の公民館で改まって自分と同年代の人にこんな人がいたのだと思えるような機会をつくっていただけると、若い世代としてもそういうつながりをつくりやすいのかなと思います。

○明石委員長

ありがとうございました。

もう一つ、26 ページをお願いします。26 ページの中で、「デジタルデバインド対策講座を実施しているが、初心者向けの内容を中心に行っており、事業開始当初より参加者が集まりづらい傾向にある」とありますけれども、今、水野さんが言われたように、多様なツールが出てきて、スマホでアクセスしたり、仲間をつくったりしている方が増えつつありますよね。その中で、公民館等や生涯学習施設で行われているデジタルデバインドの中身というのをどういうふうに考えていけばいいのかなと思います。今日の新聞でも、政府はAIの戦略本部をつくりましたよね。韓国なんてもう 86%がやっているのに、日本は 26%ぐらいしかやっていないというのがあって、非常に日本全体がAIを中心としたスキルアップができていないというのがあるのでしょうけれども、これに関して、辻先生、何か意見ございますか。専門と違って申し訳ありませんけれども。

○辻委員

ありがとうございます。そうですね。今、学生がいる前で恐縮なのですが、学生もレポートをAIで書いてくるんですよ。そういう時代になっているので、確かにAIとの親和性を高めていくというのは大事な課題ではあるのですが、それを一般市民にこれから数年間でどう普及させていくのかという具体的な策がない。そういったものを求めている層に対する中・上級者向けのコースと、従来の初心者向けのコースを設定すると、もしかしたら、初心者向けが中心だと届かなかったけれども、チャレンジングなAIの積極的な活用という中・上級者向けの講座があるのであれば行ってみようかなという人をすくえる可能性があるのかもしれないと思いました。

○明石委員長

ありがとうございました。

お隣の五藤さん、生涯学習コーディネーターをされていて、そういう講座に参加させるにはどういう工夫をすればよろしいでしょうかね。

○五藤委員

まさに私も市民大学校の卒業生なのですが、私が受講した令和3年というのは本当に空きがなくて、2次募集でやっと入れたところです。今は2次募集をしても集まらない。

それと、前は、市民大学校を卒業すると、次はコーディネーターとして公民館活動であ

ったり地域活動に参加する人が多かったんです。私たちも卒業する前からどこの公民館で活動しようみたいな意識が高かったのですが、今年は卒業生が全員どこか入らない人がものすごく多いと。市民大学校で勉強して、地域のことをどうやって広げようということで公民館に行ったり、それから、船橋のことを本当にみんなであんなに楽しく勉強したんだけど、その人たちに公民館で活動してもらえないという現状があるということとはすごく思いますね。

私は、船橋市でやってくださっている夜の「人生 100 年時代への対応」で、パラレルキャリアやコミュニティビジネスにも参加させていただいて、参加することはすごく楽しいし、仲間が増えていいんですけども、では、それを実践して公民館でその活動ができるかというと、そういう活動を提案しても、さっき若い方が言われているように、なかなかマッチングしないというか、昼間はやっぱり年齢層の高い方が多いし、夜にやれば若い人が来てくれるかというと、そうでもない。

実際にその企画に対して来ていただけないと、本当に手間暇をかけてこれだけの人数しか集まらないのかみたいな形になるなということは、自分もやっていて、市民大学校にあんなにいっぱいいた人がいないということは、非常に残念だなと思っています。

○明石委員長

ありがとうございました。

19 ページをお開けいただけますか。個人的に、これは知らなかったのですが、「市民の生涯学習活動の実績に応じ称号を授与する『学びポイント事業』」とあるのですが、これは事務方に行くと何かカードがあるのでしょうか。それとも、スマホみたいなものになるのか。この学びポイントというのは、船橋市民であれば何歳からカードをもらえるのかというのは、どうなっていますか。

○社会教育課長

これは「学びノート」というノートを用意してまして、その中に表があって、そこに参加した講座などを書いて、スタンプをもらうというノートです。そのノートに少しずつスタンプをためていって、右に書いているようにポイントがたまると、称号とバッジがもらえるという仕組みになっています。

○明石委員長

非常にいいのでしょうか、この時代にノートというのは、必要でしょうか、カード形式とか、どこでもすぐタッチできて数が増えるとか、も考えられますよね。ポイントに応じて称号がつくというのは非常にいいかなと思っているので、もう少し学びポイント事業を工夫していただけるといいと思います。竹迫さん、どうでしょうか。隣の横浜ではどうなっていますか。こういうのはあるのでしょうか。

○竹迫副委員長

私もこういう学びのポイント制というのは初めて聞きまして、面白いなと思って拝見していました。やはり明石先生がおっしゃるように、称号もいいけれども、スマホをかざし

たらポイントがたまって、もしかしたら若い人はそのポイントで何か地域のものが買えたりとか、地域の企業さんや事業者さんとそういうところで連携するのもまた面白いのかなと思いついてお話を聞いておりました。

○明石委員長

そのほか、各委員の方々に藤井課長の説明について質問なり意見がありましたらお願いします。

では、辻先生。

○辻委員

ありがとうございます。こういうポイント事業は健康部局ではよくやっていて、ウォーキングポイントとか、地域活動への参加ポイントというのがあるので、他部署連携といたしますか、そういう別の市内の部局がやっているようなポイント事業と掛け合わせれば、そっちの参加者たちもこっちに流れてくるし、こっちの参加者がそっちにも行くといったウイン・ウインの関係ができる可能性もあるかもしれないと思いました。そういう可能性を探れるのであれば探っていただけたらいいかなと思いました。

○明石委員長

非常に貴重な意見ですから、これもまた今後の２年間で具体的な議論を進めたいと思っています。ありがとうございました。

では、竹迫さん。

○竹迫副委員長

市のほうに質問したいことが何点かありまして、申し訳ありません。

１つは、７ページ目に、毎年の測定指標として、市主催事業の参加者数、利用者数というのが書かれているのですが、例えば最近では、オンラインで学んだり、要はその場に来なくても学びたいと思っている、あるいは学ぶスタイルというのが非常に増えているかなと思うので、そういう数もカウントされる形なのかなというのが質問の１点目です。

２点目は、１３ページ目に目標Ⅰ・Ⅱの達成状況というのが書かれているのですが、市としてはどういう評価をこの数字に持っていられるのか。目標値に対する赤字の現状値は、市としてはどういう評価をなさっているのかというのが２点目に聞きたいところでございます。

もう一つだけ聞きたいのは、いろんなリカレント教育を実施していらっしゃいますよね。スマホコンシェルジュの講座とか、すごく面白いなと思っているのですが、これを受講した方がその後これを生かしてこういうことを始められたとか、要は、追跡調査のようなことをやっていらっしゃるのかどうか。ただ数だけカウントしているのか、それとも、その後、この学びを実際に何かに生かしていらっしゃるというところの調査がなされているのか、この３点を伺えればなと思っています。

○社会教育課長

ご質問ありがとうございます。

まず、1点目の毎年測定指標については、具体的には、それぞれの施策に対して、そこに書いてある市主催事業の参加者数や、市生涯学習施設の利用者数という指標を設けています。実際にはもう少し細かく、毎年、この事業のこういった実績値を経年ごとに確認して積み上げた数字を出して評価しています。

もう少し具体的に言いますと、この資料に載っているリカレント教育の充実という部分では、市が主催しているリカレント教育の事業に参加していただいた人の数、健康づくりに関する学習の推進では、市の主催した健康づくりのイベントに参加された数など、全部を読み上げるとすごい数になってしまうのですが、事業の中にオンラインが入っていれば、その数もカウントされる形になると思います。

2点目の13ページの評価についてです。この指標は、それぞれ目標ⅠとⅡを定めておりまして、これはアンケート調査などを用いないと出せない数値なので、毎年出せない数字で、計画が始まる時に持っていた数字の次に把握できたのがこの令和6年度の数値になっています。単純にちょうど全期間の10分の3ぐらいが経過しているときですので、それぞれの目標値に比べると、目標Ⅰのほうは、同じ伸び率だと目標値を最後まで達するにはぎりぎりなのかなという部分と、目標Ⅱは、順調に目標達成に向かって伸びていると感じています。ただ、やはり間にコロナの影響もあったりしていますので、この後、後期計画でさらに取組を進めて、この目標値に達せられるような施策等を計画の中で展開できればなと思っています。

3点目のリカレント教育を受講した方のその後の追跡調査をされているかということなのですが、市民スマホコンシェルジュについては、その後に活動したいという方に登録をしていただいて、実際に相談会に行っていた数などは、追跡調査というよりも、こちらでお願いしているという実績があるので、そういう形で把握はできるのですが、実際に学んだことを市の事業以外のところで、例えば、ご自分の活動の中で生かしているかどうかといったところまでは把握できておらず、一部の把握になっていると思います。

○明石委員長

ほかに何かございますか。なければ、また時間があれば再度戻りますので、次に行きたいと思います。

次は、「生涯学習に関するアンケート調査について」であります。では、藤井課長からお願いいたします。

○社会教育課長

では、続きまして、資料2の生涯学習に関するアンケート調査についてご説明いたします。

2ページをご覧ください。

現在の計画策定時にもアンケート調査を行い、生涯学習に関する基礎資料の収集を行いました。実施概要にあるとおり、令和元年7月に満18歳以上の3,000人を対象として調査

を行い、1263 人、42.1%の方から回答がありました。新たな推進計画の策定に当たっても同様の調査を実施いたします。

3 ページをご覧ください。

アンケート調査は、市民の生涯学習に対する認識やニーズを把握し、市の施策や取組に反映することを目的として実施します。

4 ページをご覧ください。

ここでは、前回の令和元年度調査との比較をしています。吹き出しのとおり基本的には前回と同じ内容ですが、方法の項目にあるとおり、今回からウェブ回答も可能とすることで回答しやすい環境を整えました。内容については、自由な時間や生涯学習の認知度がどの程度あるのかなど、7 項目にわたって設問を設ける予定です。

5 ページをご覧ください。

5 ページから 12 ページまでに、前回の令和元年度の調査票を掲載しています。皆様のご意見もお伺いした上で今回の調査票を完成させる予定ですが、現時点での調査票案につきましては別の冊子にて配付しておりますので、そちらもご確認いただければと思います。

なお、最後の 13 ページには、先ほどお示ししたスケジュールにつきまして再掲しておりますので、ご参考にご覧ください。

アンケートについての説明は以上でございます。

○明石委員長

これは元年のアンケートの原案と今回のを比較するためのアンケートで、一つはウェブ調査です。最近、こういう社会調査ではウェブが結構増えてきておりますから、それもやってみたいということが一つのプランであります。

中身としては、アンケートの項目はあるのでしょうけれども、具体的なことはちょっと細か過ぎるので、今日は最初でしょうから、皆さん方から、こういう結果を知りたいとか、こういう市民の動きを知りたいとか、そういうものがありましたら意見を伺って、事務方のほうでそれをワーディングに直していくとか、考えられます。今日は、生涯学習のことで船橋の市民の意向を知りたい、こういうのを調べてほしいなのというのがありましたらお願いします。

奥住さんにお聞きしたいのですけれども、あなたから見て船橋のいいところはどんなところでしょうか。市川、松戸、柏に負けない船橋のいいところは何でしょうかね。

○奥住委員

どこの駅に行っても駅前がとてにぎやかなので、駅前に限りだと思えるのですけれども、それでもそろっているというのはとてもいいことなのかなと思います。

○明石委員長

もし大学の友達が船橋に来てくれて、奥住さん、船橋の食べ物はどこがいいですかとか、どこで遊べばいいですかとか、田舎に持って帰るお土産は何ですかと言われた場合、何か浮かびますかね。

○奥住委員

とりあえず、ららぽーとに行ってもらいます。

○明石委員長

なるほどね。お土産は何がいいですかね。

○奥住委員

小松菜。

○明石委員長

小松菜ね。これはいいね。

では、栗山委員、どうでしょうか。

○栗山委員

そうですね。僕は、公立、市立の小中に通っていきまして、高校は八千代市の県立に通いまして、大学は東京のほうになるのですけれども、そういう僕からして船橋市のいいところとしては、やはりほかの市に比べても、海とか川とか、そういうところも含めて割と自然が豊かで、かつ、僕は釣りであったりランニングであったりが趣味なのですけれども、ランニングコースであれば海老川沿いのところがしっかりと整備されていて、釣りに関しても、ちょうどららぽーと横の船橋港親水公園がしっかりと整備されていて、そこでいろいろと市民が楽しんだりしているのですけれども、そういう感じで趣味を楽しむ場所が多様にあるというのが船橋市の一つの魅力かなと思っています。

そこに関連して、何か船橋市の誇れる名産品というところになってきますと、外来種はあるのですけれども、ホンビノスガイ。最近、数は減っているのですけれども、そういう自然を豊かに感じられるものが船橋市の魅力なのではないかなと僕は思います。

○明石委員長

ありがとうございました。

水野さん、船橋市はもう長いのでしょうか。

○水野委員

私は結婚してからなので、30年しかまだ船橋にいないので、ヘルスセンターも知りません。年齢的にはヘルスセンターを知っている世代ですけれども、知らないのも、船橋の魅力と言われたら、やはり、市船、あとはふなっしーというのが一番最初に出てきます。あとは、人口が多いだけに事件があると目立つというのが非常に残念な特徴かなとは思いますが。

○明石委員長

水野さん、生涯学習的に、公民館が非常にいいとか、図書館もいいとか、市民大学校もいいとか、その辺の感触はいかがでしょう。

○水野委員

これは市のPRに対して我々がどうキャッチするかというところだと思うのですけれども、新聞を取らない世代になってきているので、やはり船橋の広報的なものがほとんど入

ってきていません。たまに駅前に行って、新しい広報があると気分ではばらめくっている程度です。今の時代、「ちいき新聞」という民間のものが市民に対して行政の働きが一番伝わってくる場所かなと私からすると思います。なので、公民館というと、行政の発信のさらに上に感じてしまうので、訪れるということが私の中では相当想定できないし、知ることができないです。

話がちょっと脱線するのですが、私は、仕事とプライベートを兼ねて、年間半分ぐらい沖縄で暮らしていたときがあります。沖縄というのはやっぱり特殊なまちで、まちの人と地域の絡みがすごく強くて、敬老会なんかはまちの人たちが集まってものすごい盛り上がるんです。おじい、おばあをすごく大事にする文化というのがあって、あの地域の人たちにあなたのまちの公民館はどこですかと聞くと、「あそこさ」「あそこ集まるよ」とみんなすぐに答えられると思います。

私は、恥ずかしながら自分の家の一番近くの公民館の場所が分からないですね。やっぱりこういうところに公民館というものの敷居の高さというか、先ほどもおっしゃっていたと思うのですけれども、市の集まりに参加することさえ難しいのに、公民館の場所に行くなんて私としたら畏れ多いというか、未知の世界です。

○明石委員長

非常に貴重なご意見ですよね。新聞を取っているのが全体で大体3割ぐらいで、あとの7割は新聞を取っていない。そうすると、かつては市の広報が新聞とともに来たのですけれども、それがなかなか市民に伝わっていかない。そういう現状において市の広報をどうしていくのか。ネット社会のことも踏まえながら、魅力ある、ホームページだけでは駄目かも知れませんけれども、そういう情報発信をどうするか、特に生涯学習の情報発信をどうするかというのは、非常に大事な課題かと思っております。

もう一点、「ちいき新聞」というのは、松戸は松戸、船橋は船橋、私は千葉ですけれども、千葉市は千葉市でみんな違うね。それぞれのいい話や、いろんなPRも多いのでしょうかけれども、あれはすごく頑張っていて、知り合いが社長をやっているのでもっとお聞きしたら、今のメディアの世界で、新聞の中でうちが一番頑張っていると自慢していましたけれども、やっぱり発想を変えていかなければいけないかなというのは、水野さんのお話をお聞きして非常に大事な意見だと思っております。ありがとうございました。

公民館に詳しい沼波さん、何かアンケートでこういうのを調べてほしいなという。

○沼波委員

そうですね。でも、これはかなり網羅していると思うんですよね。ただ、無作為に3,000人と書いてありますけれども、これを増やすということはどうなのでしょう。人口も増えていますし、もうちょっと数を増やしてアンケートを取ってもらえたら、またちょっと違う結果が見られるかなと思いますけれども、それは難しいですか。

○明石委員長

いろんな世論調査で、住民台帳がありますよね。そこでサンプリングしておりますから、

大体 3,000 取れば十分なんです。

○沼波委員

そうですか。

○明石委員長

はい。新聞社でも大体。

○沼波委員

では、妥当な数ですね。

○明石委員長

妥当で、サンプリングは専門家がやっていますから。

○沼波委員

了解です。

あと、今、水野さんが公民館の場所を知らないとおっしゃったのがとても残念で、お住まいはどちらですか。

○水野委員

北習志野です。

○沼波委員

ちょっと外れというか、津田沼のほうとかぶってしまうんですね。

○水野委員

はい。

○沼波委員

でも、みんなそれぞれかなり目につく場所にはあると思うんですよ。今、新聞を取っていないとおっしゃっていたけれども、駅にある広報に公民館の予定がばっちり入っていますし、広報を見たらどの層にも「あっ、これは行ってみたい」というものがあると思うので、ぜひ。

○水野委員

多分、その前の段階で、公民館で何をやっているかも分からないです。僕もNPOにちょっと携わっているときは、こんないろんなものがあるんだ、いろんな市民に向けてすごいプログラムがあるんだなと思ったんですけども、そういうことがあることすらも多分みんな知らないですね。

○沼波委員

大体、公民館に入って窓口のところにいろんな催しのチラシもたくさん置いてあるので、一度調べてお近くの公民館にぜひ足を運んでいただいて、また何か感じるものがあったら反映できたらいいなと思います。

○水野委員

そうですね。それをまず実行したいと思います。

○沼波委員

よろしくお願いいたします。

○明石委員長

これは草野先生がご専門でしょうけれども、なぜ小中高校生は公民館に行かないかな。中学校区に1館はつくってほしいというのは努力目標でしょうけれども、船橋や千葉市辺りは公民館が非常に活発な市なんですよね。それで、青少年は図書館には行くけれども、公民館にあまり行っていない。小中高校生が公民館に行くと、お父さん、お母さんに公民館に行ったよとか、多少は知っていただけるのだけれども、その辺のことも含めて、青少年にどういうふうに来ていただくかというのは、草野先生、何かいい知恵はありますか。

○草野委員

私も大学で社会教育の授業をやって教えて、若い世代に対して社会教育とは何かとか、公民館についても話をしたり、あるいは、公民館や青少年センター、文化ホールとか、そういう生涯学習の施設調査をレポート課題として出して調べさせたりしているのですが、やはり最初は、これまでの彼らの生活の中で社会教育なり生涯学習というものがあまり身近ではなく、学校教育が中心ということもあって、やはり社会教育や生涯学習に対する経験が非常に不足しているということは感じています。

ただ、そういうレポート課題なんかで、最初は義務的にやっているところはあるかと思いますが、実際に現場を訪れて施設を調べたり、あるいは実際に講座に参加したり、あるいは職員の人にインタビューをしたり、そういう調査活動を通して、社会教育の魅力というか、公民館の魅力といいますか、そういうものに目覚める学生は結構いるわけですね。

確かにそういう生涯学習的な実体験を十分持っていないことによって、あまり公民館に対して関心が持てないということはあるのだけれども、活動に実際に参加してみるとか、調べてみるとか、そういう何かのきっかけで生涯学習の魅力に非常に目覚めて、学校教育とは違った新しい可能性をそこに見いだすということは私の経験からもあるので、そういうきっかけづくりがやはり大切なのかなと思います。

○明石委員長

ありがとうございました。

辻先生、先生のご専門から見て、アンケートの項目の中に健康やスポーツというところは結構入っていますかね。

○辻委員

ありがとうございます。そうですね。健康とかスポーツの活動をしているかどうか、具体的な活動内容は何なのかといったところにそういった項目が入っておりますので、結構網羅されている印象はあります。一方で、最近のはやりかもしれないのですが、ウェルビーイングという視点ですかね。幸福感とか、そういった観点での項目が何か一つあると、例えば、生涯教育に参加している人ほど生活の充実度が高いですよとか、幸福感が高いですよみたいなクロス集計が出せるので、それを進めていく上での後押しになるのか

なと思いました。

もう一点は、格差の問題ですかね。社会経済状況の相違による地域活動への参加の格差はやはりどの地域にもあります。それはなかなか調査票では聞きづらい項目で、さすがに年収はいくらですかみたいなことは聞けないので、よくやるのは、主観的な暮らしぶりを尋ねることです。例えば、あなたの暮らしぶりは世間一般から見てどうですかみたいなことを3択ないし5択ぐらいで聞いてみると、やはり主観的に苦しいと感じている人は、余裕があると答えた人に比べて、地域活動に参加している割合が大分低いことが見えてきます。

なので、具体的にどれぐらいの差があるのかということをしつかりとモニターする必要があります。さらに地域別に見ていくと、そういった格差が小さい地域と大きい地域とで結構グラデーションが出てくることがあります。格差が小さい地域ではどういう取組をしているのかといったことを一歩踏み込んで調査すると、この地域ではこういうことをやっているから参加者も多いし、社会経済的に不利な層であっても参加できるのだといった手がかりが見えてきたりします。そういった社会経済的な要因についての調査項目が1～2項目あると、踏み込んだ分析が今後できるのかなと思いました。

あとは、先ほどの調査票の配布数を増やせないのかという点について、確かに先ほど先生からあったとおり、3,000 あればいいと言われているのですがけれども、地域単位の分析をすると、前回の調査でも1地域が大体100人を切ってくる状況です。そうすると、その数十人で本当にその地域を捉えられているのかということが懸念され、例えば1人回答がずれてしまうと、それで集計結果が1～2%ずれてしまうことになります。オンライン調査を併用するのであれば、紙を配布するよりかは1票当たりの予算も削減できるので、9月に間に合うかどうか分からないのですが、増やすという可能性があるのであれば検討してもいいのかなと私自身は思いました。

○明石委員長

ありがとうございました。先生が言われたウェルビーイングという言葉は、幸せ感とか幸福感と言われておりまして、これまでの教育というのは、今はちょっと我慢しなさいよ、将来の幸せのために頑張っていきましょう、というのが明治5年からの学校教育のメインで来たんですよね。それも大事だけれども、今はどうなんだろう、今の状態は充実していますか、生き生きしていますか、そういう生き方も大事なんですよ、ということを提案されていますから、そういう項目を専門家に頼んで工夫してもらうのが1点。

2点目は、教育格差の問題というのは非常に大きいので、なかなか市の調査では年収を聞けませんから、ここで言うと、生涯学習のために月に何円使っていますかという金額を聞いています。「あなたは、学習や活動のため、1か月あたりどのくらいの費用をかけていますか。」の「千円未満」から「3万円以上」、多分この辺で格差が出てくるかなと。あとは、非常に大事なことなので、集計する場合の単純集計もよろしいのだけれども、こういう学習費のところで不十分ながら格差が出るかなという感じで、そういう視点も入れてく

れるといいかなという感じはいたしております。ありがとうございました。

五藤さん、市民大学校は人気があったので、皆さんが来ていますよね。市民大学校の定員がいっぱいになったというのは、やっぱり年齢がかなり影響するのでしょうか。……

○五藤委員

昔の話で、今は割れていますので、2次募集をかけてもいっぱいにならないとか。確かに昔は陶芸講座があったり、講座の内容も変わってきたと思うのです。

それから、今もパソコン教室がいくつかあるのですが、パソコンも初期の段階はクリアしている方が結構多くて、さっき先生のお話でもありましたけれども、どの段階の人を、もう少し学びたいのか、初期の段階なのか。それと、置いてある役所のパソコンが古い、今どきではないとか、いろいろあります。それから、いつとき場所が変わって自分のを持っていったりすると、みんな違うので余計難しいとか、つくるものも、つくりたいものとニーズがマッチしないとか。ただ、パソコン学科を卒業した方たちがさらに継続して、人数は少なくなったけれども学んでいらっしゃる方がたくさんおられるとか、その先生の陶芸が終わっても別のところで陶芸をやられているとか、学ぶというきっかけづくりとしてはとてもよかったと私は思います。

たくさんの方が市民大学校に行って、船橋のことをよく知って、そして、船橋のことが大好きだという方が、生涯学習をサポートするメンバー、指導者やコーディネーターのほうに回って一緒にやっていただける方がなかなか少ない。それから、コーディネーターの中でも高齢化が進んで、私は令和3年ですけれども、その辺りの人はみんな若いねと言われる年度で、一番初めの方なんかは本当に古くてびっくりするぐらい船橋のことを知っていらっしゃるのですけれども、その年代の方にたくさん来ていただけるかという点とまた違う問題だと思うので、市民大学校との連携とか、新しい人をどうやって。

今日、大学生の皆さんも来られているので、そういう方たちがたくさん来ていただけると私たちはうれしいですね。皆さんは嫌かも分からないけれども、私たちは若い皆さんの船橋をもっともっとというお話を聞くことはうれしいと思うので、やっぱり育てていくということと、せっかく市民大学校という船橋市が力を入れている大学があるわけだから、そこにもう少し魅力があって、いつも満杯になるような仕組みも考えていただけたらうれしいのかなと思います。

○明石委員長

ありがとうございました。

では、竹迫さん、あなたから見てこういうアンケート項目が欲しいなというのがありましたら。

○竹迫副委員長

いろんな委員の方がおっしゃっていた内容に網羅されているなというふうに思いました。やっぱり若い方、大学生の委員の方がいらっしゃるけれども、多分、我々が把握していないところで、学習という名称ではなく、恐らくもうつながり合って、ある意味、

影響し合うというか、学び合うような場をたくさん持っているなど。川崎や横浜では、むしろSNSでつながって自分たちで学びの場をつくっている若い方たちが非常に多い。しかもそういう場がたくさんある。だから、やっぱりその辺りの情報がこのアンケートからキャッチできるといいなと思います。無作為なのでピンポイントで当たるかどうか分からないけれども、もしかしたらこのアンケートとは別に、今の若い世代の学びに対する意識だったり、学習と言わずとも何かやっているような現状を把握したほうがいいかもとちょっと思ったのが1点と、私は、公民館こそアウトリーチをしたほうがいいのではないかなと。アンケートとは関係ないのですけれども、アウトリーチ活動に公民館が出たほうがいいのではないかなと思いました。

○明石委員長

非常に貴重な意見をありがとうございました。

栗山さん、アンケートでこういうのを聞いてくれるといいというのはありますか。今の竹迫副委員長が言われたように、若い人はどういうアンケートを好むかというのがありましたらお願いします。

○栗山委員

そうですね、アンケートの内容自体は、自分たちの世代的に見ても、自分から見たらこのようなアンケートでも普通に、若者の思考といいますか、活動の方向性は正直つかめるのではないかなと思います。

言い方がすごく難しいのですが、僕のように割と上の世代の方から突発的に学ぶといいますか、例えば、釣りをしていて、たまたまその場にいたおじいさんであったりから昔の釣りのことや最近のことを教えていただくという機会があったりしまして、そういう若い世代の方が上の世代の方と交流している機会というのが、自分以外の方はどのくらいあるのかなというのは正直はかりかねるところですので、そういうところも聞いてみたらちょっと面白いのかなと思います。

○明石委員長

では、奥住さん、何かこういうことを聞いてみたらいいなというのがありましたらお願いします。

○奥住委員

話とずれてしまうのかもしれないのですが、私が今こうしてほしいなみたいなものが一つあって、多分、来年から交通法が変わって、自転車の取締りが厳しくなるというので、駅前で警察の方がよく取り締まっていて、朝、それこそボランティアの活動に行くときや、市内とかの近場の移動だと自転車が特に便利だなと思って、私はよく使うのですが、そうになると、今、駅前は自転車専用の道路がなくて、でもって歩道が走れなくなってしまいうんですね。となると、自転車が使いづらくなってしまうのかなと思っていて、朝、私も大学に行く際、駅まで自転車で行くんですけど、結構自転車の方がたくさんいらっしゃるので、交通法が厳しくなって自転車が使えなくなってしまうと、結構、仕事

に行きづらくなってしまう人がたくさんいると思うので、もしかしたらそういう同じ意見の方がいらっしゃるかもしれないので、もうちょっと道路の道幅を広くしたいなみたいな感じのアンケートを取っていただいて、そういう意見が多かったらできたら増やしていただけると、私は電車より自転車移動のほうが多いので助かるなと思っております。

○明石委員長

ありがとうございました。船橋は電車の本数ではいろんな線路がトップですからね。あとは自転車の問題ですね。

どうぞ、水野さん。

○水野委員

最後に1点だけ、これは非常に言いづらいところではあるのですけれども、1回目だから言ったほうがいいかなと思うところなのですけれども、先ほどからよく出ている若い人という単語が誰を指すのかということは、最近、よくクエスチョンに出てくると思うのですけれども、明石先生から見れば私も若い人になると思います。でも、私から見れば大学生の方がやっぱり若い人になります。でも、大学生から見たら今度は高校生が何を考えているか分からない若い人になる。これは順を追っていくと多分分からない。そして、若い人に託そうとする年寄りのずるい心。

要は、選挙も最近そうなのですけれども、若い世代をどう取り込むかはやっぱりすごく大事なことで、ただ、若い世代は、高齢化が進んでいる中で非常に希少種になりつつあるんですよ。その意見をやたら取り入れようとして失敗する。取り入れようとして失敗する。今回もその流れになるのであれば、あまり意味がない。やはりどの世界を設定するかというのも話し合わないといけないと思うのですけれども、若い世代が、動く世代がとわれているけれども、本当に希少種なので、あの人たちの意見に合わせていくと、公民館の活性化もある意味、どすんと跳ねるときもあると思いますけれども、やはり何もなかったね、若い人は難しいねと、またいつもの反省で終わってしまうような気がします。

今日この流れになってきてしまったので、これはもうやめたいなと。これをやっていると、生涯学習どころではなくて、人が集まらないねというただの意見交換会になってしまうと思いますので、最初から正論じみていて嫌なのなのですけれども、そこは今の流れで感じました。すみません。意見です。

○竹迫副委員長

私、一言いいですか。

○明石委員長

どうぞ。

○竹迫副委員長

私が若い方と言っているイメージは、今もうお勤めをしている40代、働き盛りみたいな方たちが、仕事が終わった後にSNSでつながって、学習というか学びの場をつくっていらっしゃるケースがあるので、一つはその形と、もう一つは、大学生とかまだ社会に出て

いない学生さんを若い人というイメージで捉えていました。

私はそこに迎合するというよりも、今、ここの議論の中であまり捉えられていない多様な学びのスタイルの現状を知りたいというのがあって、委員として、今、どういう学びの形態が起こっているのかという事実の情報が把握できればなという意味合いで、さっきそういうことを述べました。

理想としては、私は、公民館も生涯学習の拠点ですけども、もっと多様な学べる場が多くあるまちというのが豊かかなと思っていて、あまり公民館というのに私の発想が縛られていない部分があるかなとちょっと反省しております。

○明石委員長

個人的ですけども、生涯学習の場合の若者といったときは、18 歳から 29 歳までかなという感じは想定していますけれども、それはここで年齢を聞いていますから、年齢別でクロスしてみれば年齢別の意見分布が出てまいりますから。あとは、この結果の解釈を、専門家にもお願いするけれども、もう少しこの委員会で年齢別にフォーカス、焦点を当ててみるとか、そういうこともできたらやってみたいなど、思います。結局、最後はデータの解釈をどうするかということだと思っています。

課長、このアンケート項目に対する注文というのは、いつまでに事務方に意見があれば出せばいいですかね。もう会合はできませんよね。このアンケートは9月に実施するわけでしょう。

○社会教育課長

9 月中に実施を考えておりますので、できれば早くにいただければと思います。

○明石委員長

日にちを決めていただけると。どうぞ。

○社会教育課長

今週中とか、ちょっとあれですかね。

○事務局

事務局でございます。調査票の 3,000 枚の印刷を 9 月中旬ぐらいにやりたいと考えていて、具体的には 20 日以降ぐらいにスタートできるといいなとは思っておりまして、そういったスケジュールを考えると、調査票の項目自体については、今日の会議の意見も踏まえますし、帰ってみてこういうのもいいのではないかみたいなご意見がありましたらメールをいただきまして、そういう内容を我々事務局のほうで取り込んで、なるべく今週中に固めたいなと思っています。

○明石委員長

そうすると、遅くとも今週の金曜日までね。もし今日の意見をお聞きしてこういう項目も欲しいなというのがありましたら、採用されるかどうかは別として、意見は意見として今週の金曜日までにメールを通して出していただけると助かります。よろしく願います。非常に貴重な意見をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、次第の４、その他に参りたいと思いますけれども、委員の皆様から何かございますか。

それでは、事務局から何か連絡はありますか。石毛補佐、何かありますか。

○社会教育課長補佐

事務局です。事務局のほうからは特にございません。

○明石委員長

では、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和７年度第１回船橋市生涯学習基本構想・推進計画検討委員会を終わりたいと思います。

第２回は、年末になりますけれども、１２月を予定しております。日時は、調整の上、事務局より改めてご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

午後４時５１分閉会